

大正小学校における調査結果の状況

1 調査の目的

- ① 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 各学校が児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査対象

小学校5年生 男子6名 女子11名

3 調査の時期

平成28年6月～7月

4 調査内容

- ① 児童の体格（身長・体重）
- ② 実技に関する調査（身体力テストの種目を実施する）
 - ・握力 ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横とび 20mシャトルラン
 - ・50m走 ・立ち幅とび ・ソフトボール投げ
- ③ 児童質問紙による調査

5 調査の結果

- ① 体格の状況
 - 男子 身長・体重ともに全国平均値をやや上回っている。
 - 女子 身長は全国平均とほぼ同じで、体重は全国平均値を上回っている。
- ② 実技に関する調査
 - 概況
 - 男子の体力合計点は全国・全道を大きく上回っており、総合評価が全員C以上のスコアを記録している。女子の体力合計点は全国・全道を上回っており、総合評価C以上は、9割を超えている。

《男子》

全国平均を大きく上回る種目

○握力 ○上体起こし ○長座体前屈 ○反復横跳び ○20mシャトルラン
○50m走 ○立ち幅とび ○ソフトボール投げ 以上全ての種目で大きく上
回る。

全国平均を大きく下回る種目

無し。

《女子》

全国平均を大きく上回る種目

○上体起こし ○反復横跳び

全国平均を大きく下回る種目

無し。ただし、20mシャトルランの1種目がやや下回り、他の5種目はやや
上回る。

③ 質問紙による調査

特徴的であった質問

ほぼ全員が運動を好きと答えている。

ほぼ全員が体育の授業を好きと答えている。

男子では50%、女子では50%の児童がスポーツ少年団等で、活動している。

6 調査結果に対する考察

- 実技については、概ね良好な結果と考えている。生活全体での運動量が確保されていると考えられることによると考えられる。
- 体育の学習での満足度が高く、運動に対する意欲は高いと言える。
- 少年団などで活動している児童は実技において高い得点を記録する傾向にあり、学校全体の得点を押し上げる要因と考えられる。

7 今後の取り組みの方向

- 少年団など、地域住民が児童の運動を支えている側面は強いと思われる。学校においては、それらの活動に対し連携しながら児童の運動意欲を高めるよう働きかけていく。
- 体育の授業においては、適切な本時の目標のもとで、運動量の確保や運動意欲を高める指導の充実を図っていく。
- 児童会やクラブなどを通じ、児童自らが企画し運動への関心を高める活動を充実させていく。